

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立関特別支援学校

学校番号	113
------	-----

自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で生きていくために必要な知識・技能を身に付ける。〈知識・技能〉 ・自ら考え、自分の思いや考えを表現する。〈思考力・判断力・表現力〉 ・自ら学び、仲間と共に高め合える。〈学びに向かう力・人間性〉
--------	---

【小学部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部の教育活動に関して概ね高評価であった。 ・特別支援学校の教育に関して比較対象がなく、よく分からない、我が子にもっと適切な活動があるのではないかと、などの思いをもっている保護者がいる。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ①学校、家庭、関係機関が連携し、児童が安全・安心に活動できる支援体制の中で教育活動を行う。 ②児童の興味・関心を喚起するよう体験的な活動の充実を図り、自分の思いや考えを身近な大人を支えにして表現できる状況づくりを推進する。 ③児童が「やりたい」「楽しい」と期待が持てる活動や、児童の良さが発揮できる学習集団の工夫に努める。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・部全体で児童の情報を共有し、個に応じた支援を組織的に行う。 ・学習グループ等において、活動の目標や重点を明確にした授業づくりを行う。
目標の達成に必要な具体的取組	<ol style="list-style-type: none"> ①学校や家庭等の様子、ヒヤリハット事例等を共有し各課題について対応する ②詳細な実態把握と情報共有、児童の自己選択や自己決定の場の設定 ③ICT機器等を積極的に活用した授業づくり、学習グループ編成の工夫
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ol style="list-style-type: none"> ①関係者と迅速かつ組織的に情報共有し、適切な支援体制がとれているか。 ②児童が自分で選択する場面や思いを表現する環境を整えた授業づくりを行っているか。 ③児童が主体的に取り組めるように教材・教具や学習集団を工夫しているか。
取組状況・実践内容等	<ol style="list-style-type: none"> ①毎日の引継ぎや連絡帳で保護者との情報交換を行った。養護教諭や看護師とも情報共有を常に行い、児童が安全・安心して学校生活を送ることができるように対応した。必要に応じて療育機関との情報交換も行った。職員間でもヒヤリハット事例や児童の様子についての情報交換を行い課題について対応した。しかし、全般的な支援の方向性や学級経営に関する情報共有や相談については十分ではない部分があった。 ②校外学習や行事等を核にしなが、児童が自らの思いを自分なりの方法で伝える機会や児童らの自己決定に基づいた体験的な活動機会を授業の中で積極的に設定した。 ③児童の興味関心に基づく題材設定や教材選定を行い単元にストーリー性をもたせて活動の必然性を感じられるように工夫した。手本を示したり手順表を提示したりして児童が分かって取り組むことができる環境設定をすることができた。類型や部をこえた学習集団を工夫することで児童に適した活動を設定することができ、意欲的に取り組む姿につながった。訪問教育児童がオンラインで部集會に参加することができた。

評価の視点		評価
①児童の情報共有をもとに、適切な支援体制がとれているか。		A (B) C D
②児童の自己選択・自己決定を大切にし、児童が自分の思いを表現できるような授業づくりをしているか。		A (B) C D
③児童が主体的に取り組めるように教材・教具や学習集団を工夫しているか。		(A) B C D
成果・課題		総合評価
<p>①〇家庭や療育機関、学校と情報交換を行い、児童の支援に活かすことができた。 ▲授業に入る職員の入れ替わりが多く、支援の方向性を共通理解して統一感をもって支援することに課題が残った。</p> <p>②〇児童の興味関心に基づく体験的な活動の中で、児童が自己選択や自己決定を行う機会を設定することができた。</p> <p>③〇児童にとって必然性のある活動や類型や部をこえた学習集団を工夫することで主体的に取り組む姿が見られた。訪問教育児童がオンラインで部集会に参加し、他の児童とのつながりや学校への所属感を感じる機会とすることができた。</p>		A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の方向性や学級経営に関する情報共有や相談をちょっとした時間も活用して積極的に行う。 ・類型や部をこえた全校体制で児童生徒を支援していく体制づくり。 	

【中学部】

評価する領域・分野	教育活動	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動については概ね高評価であった。 ・保護者からは、いじめなどの項目で「わからない」の回答が少数あった。今後、より丁寧な説明をしていく必要がある。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①個に応じた適切な方法を取り入れながら、基本的な生活習慣や社会生活に必要な知識技能を育成する。 ②個の発達段階に合わせて、適切な表現方法を設定し、表出を促してコミュニケーション能力を育てる。 ③仲間と関わる活動を通して、お互いを認め合うことで、自己肯定感（自己受容感）を高めたり、仲間を尊重する気持ちや態度を育てたりする。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で生徒の情報を共有し、個に応じた支援を組織的に行う。 ・授業を一緒に行う他の部の職員とも、生徒の実態の理解や授業の目標や内容について連携を図る。 ・学校・家庭・関係機関で情報を共有し、支援に活かしていく。 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ①部の職員、保健室の職員、関係分掌の職員で生徒の実態について共通理解を図り、一人一人に応じた支援方法を工夫する。 ②生徒の実態に応じてコミュニケーション方法を工夫し、気持ちや考えを表現する機会を設定する。 ③仲間と関わる活動を積極的に設定し、一緒に活動する楽しさやお互いのよさを感じられるようにする。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の実態について共通理解を図り、一人一人に応じた支援方法を工夫している。 ②生徒の実態に適したコミュニケーション方法を工夫し、自分の思いや考えを表現する機会を設定しているか。 ③仲間と関わる活動を設定できるように、学習集団や活動内容を工夫しているか。 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ①研究の日や類型会等で生徒の事例について職員間で話し合いを重ね、共通理解を図った。毎日の引継ぎや連絡帳で保護者と情報交換を行ったり療育機関でのリハビリ参観や支援会議に参加したりして得た情報を職員間で共有し、支援に活かした。 ②マカトン法やその他のサインを日常的に使用した。生徒自身が「伝えられた」という実感をもつことや感じたことを表現しようとする事ができるように、生徒からの表出にはすぐに応えること、生徒が表現しようする姿を待つことを大切にされた。 ③小学部や高等部との合同の授業を設定したり夏祭りやさんざし祭でも校内外の方と触れ合う活動を設定したりした。生徒が役割を担ったり仲間と関わったりする内容を設定した。 	
評価の視点	評価	
①生徒の実態について共通理解を図り、一人一人に応じた支援方法を工夫できたか。	A	ⓑ C D
②生徒の実態に適したコミュニケーション方法を工夫し、自分の思いや考えを表現する機会を設定することができたか。	A	ⓑ C D
③仲間と関わる活動を設定できるように、学習集団や活動内容を工夫することができたか。	Ⓐ	B C D

成果・課題	総合評価
<p>①〇生徒の事例について職員で話し合い、共通理解して支援することができた。また、保護者や療育機関との情報交換を行い、職員で情報を共有して支援に活かすことができた。</p> <p>▲児童生徒の人数減に伴い、さらに学校全体で児童生徒を支援する体制づくりが必要である。</p> <p>②〇マカトン法やその他のサインを日常的に取り入れた。それにより生徒自身が「伝えられた」ということを感じることができ、自分から伝えようとする姿につながった。</p> <p>③〇授業や学校行事の中で生徒が役割を担い仲間と関わる活動を設定したことで、仲間と関わる楽しさや役割を果たす充実感を感じることに繋げることができた。他の部との合同授業では、他の部の職員とも生徒への支援について共通理解を図るために情報交換を行った。今後も継続する必要がある。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や授業のことについて、ちょっとした時間にも気軽に話すことができる雰囲気醸成と定着。 ・職員だれもが自分の思いを伝えあいながら、学校全体で児童生徒を支援していく体制づくり。

【高等部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には概ね高評価であった。 ・信頼関係や外部との連携、実態把握等については努力を要し、保護者に伝わる発信が必要。 ・いじめや働き方改革などのわかりにくいものについてもわかりやすく伝えていく必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の進路意識を高め、教員間で授業や行事の共通理解を十分行った上で生徒の進路実現に向けた授業や行事を実践する。 ②生徒が主体的に取り組めるような具体的な課題を設定し、生徒自身自分の考えや思いを積極的に表現できるようにする。 ③生徒相互のコミュニケーションを大切にし、協働的に課題に取り組むことを通じ自立のために必要な力を育む。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学級、類型会、学年会、学部会での生徒の情報を共有、連携する。 ・必要に応じて、校内・校外と連携した支援会議を行う。
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ①講習会や授業等で進路意識を高め、生徒自身が進路目標を決める支援をする。個々の進路に必要な学力、体力、技術を職員間で共有し、進路実現に向けて生徒に課題を提示する。 ②ICT 機器の応用的な使い方を習得し、生徒にとってさらに分かりやすく興味をもって授業に臨める工夫をする。 ③学習の場を学年、類型、学部全体など工夫し、意見を交流できる場や協力し合って活動する場を設定する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ①職員間で情報を共有し、生徒に支援することができたか。 ②ICT 等を活用するなど生徒が授業に興味関心をもつことができたか。 ③仲間との係わりに楽しみや期待感をもつことができたか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ① 連絡帳、朝の会での読み上げ、送迎時の保護者との会話や職員打合せなどで情報共有に努め、信頼関係構築などにつなげた。 ② メタモジや視線入力、デジタル教科書等 ICT 活用を工夫して、興味関心の向上や自己選択による主体的な学びにつなげた。 ③ リズムランニング、夏祭り、VISCUIT を教える、合同研修等、他学部、他類型との交流機会が増加した。
評価の視点	評 価
①職員間で情報を共有し、生徒に支援することができたか。	A (B) C D
②ICT 等を活用するなど生徒が授業に興味関心をもつことができたか。	A (B) C D
③仲間との係わりに楽しみや期待感をもつことができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ① ○情報共有により保護者との信頼関係が強化した。 ▲類型間・学部間の情報共有不足。 ② ○ICT 活用で生徒の興味関心が高まり、主体的な学びが促進した。 ▲教員の ICT スキル差、活用の偏り。 ③ ○仲間との交流機会を設定し、楽しみや期待感をもたせることができた。 ▲生徒一人ひとりの役割設定や継続的な交流の仕組み不足。 	A (B) C D

来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none">・類型横断の情報共有会議やデジタルプラットフォームの活用。・ICT 研修の充実と教材共有。・学部全体での縦割り活動や交流イベントの定期化。
---------------	---

【教務部】

評価する領域・分野	教育活動	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善（教育課程や日課の見直し、授業づくりの模索） ・教師の専門性を高める研修の充実 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◎「つながりやかかわり」を大切にした授業づくり</p> <p>① 学部や類型、学校を超えたつながりを目指し、児童生徒が協調や協働の中で自己の課題や役割と向き合う学習スタイルの模索と年間計画や個別との連動</p> <p>② 児童生徒の実態把握から学習活動へつなげるための専門性の向上</p>	
重点目標を達成するための校内組織体制	<p>1 主任会を中心とした学校課題に関わる取り組み</p> <p>2 専門部の立ち上げによる対話型の研修会や専門家との相談体制の強化</p>	
目標の達成に必要な具体的な取組	<p>① 協調や協働の視点から児童生徒の実態把握を深め、授業実践に活かすための類型会や学年会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話による同僚性UP と授業実践 ・ICT 機器の活用拡大のための研修や実践 <p>② OT、PT 相談を活用し、自立活動の中心的な課題に迫った授業づくり</p> <p>③ 日々の授業を充実していくための研修内容及び研修体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態を把握するための専門性を高める研修の充実 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<p>① 対話を通して、学校生活における児童生徒の実態を教師間で共有し、それを活かした授業実践ができたか</p> <p>② 研修を通して、児童生徒の実態把握を深めることができたか</p>	
取組状況・実践内容等	<p>① 研修の日、学年の日、類型の日をつなげ、ラベルコミュニケーションを活用した授業づくりを行い、教員間で対話を深め、児童生徒のつながりを作る取り組みを実践することができた（夏祭りなど）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OT、PT 相談がしやすいように環境整備を行い、実態把握を行う前期に相談時間を多く設定できた。 <p>② 校内研修を通して、児童生徒の行動を事実と解釈から分析し、実態把握や児童生徒理解を深め、授業づくりにつなげることもできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員間で児童生徒理解のための対話を積み重ね、自由に意見を述べ合う関係性の構築に努めることができた（研修の日、ミドルの日、行事検討会など）。 ・児童生徒の実態に応じ、ICT 機器を使用した授業実践に取り組むことができた。また、夏祭りやさんざし祭のなかでプログラミングソフト（ビケット）を使って全校児童生徒で表現活動を行うことができた。 ・児童生徒及び職員の減少を見据えて、図書館整備等、分掌の担当する業務における環境整備に取り組むことができた。 	
評価の視点		評 価
① 「つながり」や「かかわり」の視点から多様な集団を作り実践をすることができたか	A	ⓑ C D
② 研修を活かした実態把握及び授業実践ができたか	A	ⓑ C D
成果・課題		総合評価
① ○学校課題を受け、少人数でも「つながり」「かかわり」の視点から類型や学年、学部、学校を超えた学びができるように、日課表を整え、テーマを共有した行事を行うことができた。 ▲協働学習の推進をどのような組織で進めていくか、検討が必要。	A	ⓑ C D

	<p>② ○新しい時代の中で生きていく児童生徒を見据え、全校でプログラミングソフトを使った実践を行うことができた。</p> <p>③ ○教育的な視点からからだや課題の時間が設定できるように OT,PT 相談の仕組みを変更できた。 ▲専門家との連携において、当校の意図することを伝え、専門家の意見を取り入れながら環境整備を進めていくことが課題。</p> <p>④ ○研修の日、学年の日、類型の日を活用して学校課題に対応することができた。 ▲今後、授業づくりのコアとなる主任会をどのように組織的に位置付けていけばよいか検討が必要</p> <p>⑤ ▲分掌に携わる職員が減少していくため、仕事の割り振りを再検討する。</p> <p>⑥ ▲会議の精選や内容の精選が進んできたが、それを支えるサーバーのフォルダや Teams のチャネル整理が必要になってきた。</p>	
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校課題を踏まえた行事検討会や日々の授業づくり、集団作りに引き続き取り組んでいく。 ・地域等を巻き込んだ行事等が授業づくりに結びついていく組織の在り方を明確にしていく。 ・専門家と連携し、教育として深めていける自立活動の在り方を明らかにしていく。 ・小規模化していく状況に見合った仕事の割り振りを検討する。 ・会議がより重要な部分に迫れるように、サーバーや Teams を見直す。 ・小規模化に合わせて、物品整理を進める。 	

【キャリア生徒支援部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめをゆるさない関係づくり ・お互いに認め合い尊重し合える関係づくり
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校生活を通して集団的、自治的、文化的力量を高めるとともに、家庭や関係機関と連携し、基本的な生活習慣や思いやりのある心を育てる。 2 不審者に適切に対応する力を育てる。 3 SB の共同運行（サービス等の下校を含む）を安全かつ計画的に行う。 4 関係諸機関と連携しながら、個々のニーズや家庭状況等に応じた進路支援、また継続的な校内・校外支援や円滑な移行支援を行う。 5 PTA 及び同窓会と学校が協力、連携し PTA 会員や同窓生のつながりを深めることができる PTA 活動及び同窓会活動になるよう支援する。また、会員数減少に対応できるように活動内容の検討を行う。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各担当を中心にした他の校内組織や外部の関係機関と連携。 ・各学部・分掌内、PTA 役員会、同窓会役員会との情報共有。
目標の達成に必要な具体的取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒向けの研修、人権教育の推進、児童生徒会活動の充実、MS リーダーズ活動、文化的活動の推進。SC 面接、教育相談研修、いじめ等のアンケートの実施。 2 警察と連携した不審者対応訓練を実施。 3 関係諸機関と連携し円滑な SB の共同運行の実施、計画的な校外学習等の SB の実施。 4 ニーズに応じた実習や見学の計画・実施。幅広い進路先に対応した進路開拓の情報収集と情報発信、進路行事への参加の呼びかけ。 5 関係諸機関との連携した円滑な移行支援や卒業生支援（3年間）の継続。 6 研修会やつながる会（地域連携協働会議）、交流籍校交流、リハビリ参観等の実施。 7 つながりが深められる活動の充実や活発な意見交流ができる PTA 役員会の運営の補佐と協力。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が安全に安心して、主体的に学校生活を営むことができたか。 ・進路決定に向けて、ニーズに応じた具体的な進路支援の取組が行えたか。 ・地域や校内のニーズに応じた支援が実施できたか。 ・PTA 活動及び同窓会活動が保護者や同窓会役員を中心とした話し合いによって、充実したものになったか。そのための連携・協力ができたか。
取組状況・実践内容等	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒向けの研修（闇バイト・薬物乱用・消費生活 講話を中濃特別支援学校と合同実施）や生徒会を中心に全校集会やニコニコの木の作成を実施した。 2 警察と連携して不審者対応訓練を実施することができた。 3 中濃特別支援学校と共同運行のためお互い連絡を取り合いながら計画通りに運行することができた。 4 家庭と担任との情報共有、関係諸機関との連携をすることで、ニーズに応じた情報提供や事業所・企業の見学、実習、卒業生支援を実施できた。 5 研修会、つながる会（地域連携協働会議）、交流籍校交流、リハビリ参観等、ニーズに応じて校内職員や関係機関と連携しながら実施した。

評価の視点	評 価
<p>①児童生徒の自立や信頼関係を構築するための取り組みは適切であったか。</p> <p>②関係機関と協力して、防犯、安全管理・スクールバスの運行が円滑に行うことができたか。</p> <p>③地域や校内のニーズに応じたキャリア支援及び校内支援が実施できているか。</p> <p>④PTA 役員と連携を取りながら「つながり」を深めるための活動を行うことができたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
成果・課題	総合評価
<p>①○児童生徒がお互い主体的に活動に参加することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒数の減少に伴い、実施方法の工夫が必要になってくる。 <p>②○職員や関係機関等と情報共有を図りながら、ニーズに応じた研修会の企画や進路支援の実施を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教育支援計画・移行支援計画の積極的な活用に向けて、作成手順や実施方法を今後も引き続き整えていく。 ●生徒数、職員数の減少に伴い、行事・研修会等について中濃特支との合同開催も視野に入れていく。 <p>③○PTA・同窓会ともに、役員と連携をとりながら行事の企画をしたり、「つながり」を深めるための活動ができる範囲内で行ったりすることができた。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒や職員の減少に伴い、集団での学びの確保や業務の遂行のために近隣学校と連携・協力しながら、学校行事や研修会の実施をしていく。 ・福祉サービス事業所説明会は、学校として協力しながら関市に業務を移行していく。 ・今後の同窓会の運営について、他校の情報等を得ながら同窓会役員と検討していく。

【保健安全部】

評価する領域・分野	保健・安全	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理、医療的ケア、環境安全の項目で概ね高評価であった。 ・緊急時対応や安全点検等については教職員の人数減少により体制改革が求められているため、今後とも検討が必要である。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 児童生徒の健康の維持増進と安全教育の推進に努める (医療的ケア、摂食支援) ② 防災を含め、安全安心な環境整備や施設管理に努める 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療的ケア：保護者や主治医・指導医・管理職との連携、看護師と教員の協力体制、各検討会での綿密な検討 摂食支援：給食係を中心とした摂食支援研修、ST・OTと連携 ② 防災：事務や管理職との連携、防災対応時の外部からの情報収集 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ①・看護師間の情報共有と看護師間や看護師・教員でのダブルチェックの確立 ・全校体制での緊急体制づくりと緊急時対応訓練の実施 ・摂食研修会での基礎知識の習得と教員間での個別支援交流 ②・校内の災害時避難体制づくりと障がい児避難継続支援の検討 ・環境美化や設備管理の安全を少人数の教員で維持できる体制をつくる 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療的ケアや摂食支援について関係者間で情報共有し、児童生徒の健康保持や安全教育に努めたか。 ② 安全な災害時避難体制づくりができたか。少人数の教員で環境美化や設備管理ができたか。 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ①・医療的ケアの変更や追加の検討があり、その都度、保護者や指導医、管理職と相談、検討した。中学部の宿泊学習に学校看護師が同行し医ケアを行った。 ・年度初めに各チームで児童生徒の摂食支援について共通理解した。 ②・寄宿舎がなくなり、防災の体制が大きく変わった。今後の職員数の減少を踏まえて、その都度、体制を検討していく必要がある。 	
評価の視点		評 価
①児童生徒の健康保持、安全教育に努めたか。		A (B) C D
②安全な災害時避難体制づくりができたか。環境美化や設備管理ができたか。		A (B) C D
成果・課題		総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ① ○人数減少の伴い、一人ひとりに目が向き、複数の目で安全確認ができた。 ▲緊急対応や摂食支援等の基本事項を繰り返し確認し、意識を高める。 ② ○防災体制を見直した。今年度より防災の日をつくり、防災意識が高まった。 ▲防災体験を職員の負担を減らして実施できるようにしたい。 		A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急対応訓練や摂食研修会とまでいかなくても、教員間の情報交換や動画視聴等、できる範囲で基本事項を確認する機会を設ける。 ・少人数での防災計画や安全点検の実施を検討する。 	

学校関係者評価（令和8年2月4日実施）

意見・要望・評価等

- ・学校を開いていく決断や受け入れることは大変だが、協働学習を丁寧に授業に落とし込んでいる。
- ・地域連携はよい取り組みだが、地域住民の認知度をあげることが課題。
- ・学校間の連携から地域に広げていくことが来年度の課題。
- ・新しい取り組みを行いながら、前に進もうとしているのがよくわかった。